

ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2013.9.6発行

NO.32

研究会・集会の報告号

〈総会の報告〉 学生会員制度を新設しました。

8月7日(水)・8(木)名古屋国鉄会館にて、総会を行いました。

愛知、京都、東京、宮崎、奈良から7名の参加者があり、委任状11通と合わせ、総会は成立しました。総会議案を検討し、原案どおり可決されました。また、当日提案として、学生会員制度の新設が提案され、全員一致で可決されました。規約の変更は、事務局に一任されたので、別紙のとおり改訂します。

会計の内容も、会員のみなさまのご協力により、安定的な会の運営ができており、新しい年度の活動計画も立てることが出来ました。お礼申し上げます。

新しい会計担当は、京都の今福さんをお願いすることになりました。振込口座は、従来と変わりません。新年度の会費納入、よろしく願います。

〈データ入力協力者もっと募集中!〉

今、平成23、24年分のデータ入力の協力者を募集しています。詳しい分担表を同封いたします。まだ、担当者名の入っていない部分を協力いただける方、ご連絡をお待ちしています。メール shiraberukai@ae.auone-net.jp

第5回義務教育条件 整備法制研究会に参加して

8月7・8日に名古屋で行なわれた法制研究会で、私は、「再任用教員制度の実施状況と教育的意義」というテーマで発表しました。井深先生からは、「再任用教員の活用という観点から考えたらどうか。」とご指摘がありました。事務職員の会員の方からは現場における短時間再任用教員の働き方についてご意見をいただきました。ありがとうございました。

この他、井深先生の講義では、付属の公文書リストを見て、「これぞ、プロの研究者のお仕事。」と思ひ、田中先生の報告では子どもの権利という視点で見た場合の、日本の位置の低さに呆然としました。

(鈴木つや子)

2013教育のつどいⁱⁿ名古屋

今回、高校に着目してデータ分析を行いました。調べる会や教育の集いで発表し、ご意見・ご指摘を頂く中で、徐々に自分のはじき出した数値の意味が分かってきました。特に、教育の集いではデータ分析の際に参考にした高教組のデータを作成した方にもお会いできましたし、現役の先生のご意見から、今後の分析対象・課題も見えてきました。まだまだ、表層をめくったような段階ですが、この先もデータの海を泳いでみようと思います。

(村田峻一)

今後の予定とお知らせ

今年度、発行を計画しているパンフレットは、以下のとおりです。

- 今後の30人学級実現運動教育のつどいレポート集(全国の調査活動から)
- H23年度決算・総額
- H24年度定数・実数
- 臨時教職員問題(再版)係数について
- 学校事務職員の定数実数
- H18 23 24 基準日比較

特に、「臨時教職員問題」について、再編集して発行したいと考えています。

図書の発行も計画しています。「教職員配置の調べ方」という仮題にしていますが、今の情勢に合ったものにしていきたいと考えています。ご意見など、お寄せ下さい。

総会委任状のお便り紹介（敬称略）

南新秀一（鹿児島市）

今回も参加できません。皆様によろしくお伝えください。

高橋哲（さいたま市）

参加したく調整をしたのですが、山梨での校務と重なり、欠席させていただきます。皆様は何卒よろしくお伝えください。来年はよろしければ、埼玉での開催もご検討ください。

木戸久裕（加古川市）

退職後、「山之上の小さな地域博物館」をつくり、館長一人で運営して忙しい日々を送っております。加古川市でも戦後すぐに教育委員会が、自主的な教育活動に目覚め、地方独自の教育をすすめようとしていたことが分かってきました。そこに、財政問題が暗い影を……。

データ入力体験記（メールでのお便り）

7月は平成24年度版パンフレット作成のために、中学校の実数調のデータ集計作業をしました。初めて体験したのですが、実際に公文書に書かれている職種が多種多様であることに驚きました。（これまでは、再任用教員の数字にのみ注目して調査していたため。）（鈴木つや子）

8月になってしまいましたが、ようやくA表担当分の入力と見直し作業が終了しました。見直しをしたところ、1カ所だけ間違いを発見したので直しました。

その他、シートBのQ45（1学級あたりの生徒数*複式学級*大阪）の計算式が「DIV/0!」の表示になっています。（そこだけセルを黄色で塗りつぶしておきました。）おそらく0/0の計算なので無記入になると思うのですが、一応その他も含め、ご確認をお願いいたします。

この作業に携われたことで、学習会のときよりもさらに教育条件整備の現状に対する興味が深まりました。やっぱり実際に自分でやってみると面白いですね。お忙しい中、また、お急ぎの中、貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。（宮澤孝子）

2013教育のつどい 第28分科会の報告

元小中学校教員 鈴木つや子

8月18日の「教育のつどい」の分科会で報告しました。わたしの研究の協力者である、再任用教員の方が参加されました。彼女の、子どもたちへ熱い思いをうまく皆さんに伝えらず、彼女には申し訳なく思っています。再任用教員の方々の「子どもを大切にしたい」という思いは強いのです。これは非常勤講師も同じです。たとえ、勤務時間は短くとも、教育に対する気持ちは常勤と同じです。今後研究を進めていくときには、これを強く打ち出していこうと思いました。

以下は、分科会での議論の内容と、夜に行った調べる会主催の「交流会」の報告、私の感想です。

このニュースは会員以外の方にもお送りしています。ご意見・ご感想などお寄せください。

1 「調べる会」のレポートとして、鈴木がレポート 「再任用教員制度の実施状況と教育的意義」を
発表しました。(レポートを希望される方は、紙で郵送しますので、鈴木までご連絡ください。
mamisan333@katch.ne.jp)

2 参加者からの報告

- ・**福井(高校)の参加者から**...再任用を希望しても、勤務先が毎年変わる、50 キロも離れた学校に
転勤させる、などの抑制策で希望を取り下げさせるケースがある。実際の任用は大変少ないが、再
任用希望はもっと多い。
- ・**東京の参加者から**...再任用後、非常勤教員という制度があって、経験豊かな教員が多く任用され、
学校現場で活躍している。再任制度そのものには多種の勤務パターンがある。再任用教員はよく働
いている。
- ・**調べる会事務局長山崎洋介氏から**...再任用教員はたたき上げで安価な労働力であるから、行政にと
って都合がよい。多用し、教育を再任用教員に頼ってしまうと、今はいいが、若い教員が育たない。
未来を食いつぶすことになる。

3 鈴木が個人的に聞いたこと...

- ・**大阪府の再任用経験者で現在は産休・育休講師をしている教員**...これまで再任用教員は定数外で任
用されてきたが、橋下知事になってから、定数内の扱いになり、決まった授業をもったり、初任者
指導を担うことになった。定数外の時には、もっと柔軟に仕事ができ、職場では重宝された。再任
用教員は前のように定数外にすべきである。
- ・**再任用教員**...短時間でも、フルタイム再任用教員や正規教員と同じ思いをもって、働いている。子
どもたちが安心して学ぶことが大事と思っている。少人数学級はとても大切な運動だが、それで学
校教育の問題がすべて解決するわけではない。子どもたちはいろいろな問題を抱えている。シニア
ができることはいろいろある。東京はそういう意味で様々な問題を抱えているからこそ、他とは違
った成果があるのかなと思った。わたしは、わたしができることをやりたい。学校教育の中です
ることが大切だと思っている。短時間再任用が多いと職場が迷惑するとか、新人が育たないとは思
わない。むしろ、新人教育の重要な部分を担っている。

4 大阪からの特別報告(大阪教職員組合 教文部長 末光章浩氏)

(再任用に関する事項のみ)

- ・常勤講師 6000 人、再任用 2000 人を雇用しても、常に 50~60 の穴があく
再任用に選別選考をしようと言っていたが、2012 年撤回することができた。
- ・再任用制度に「C 評価者は除外」方針が出されたが、これに反対する運動をしている

5 共同研究者の山口隆氏感想(再任用に関する事項のみ)

- ・再任用制度は年金制度補完が出发点であったが、安上がりの教育を作って行った。これは大きな問
題である。定数くずしや総額裁量制を使って、非正規教員や再任用教員を増やし、教育条件の悪化
をもたらしたからである。

6 基調報告 (中田康彦氏) (再任用に関する事項のみ)

福祉国家からの後退 略 略

財政的合理性(効率性)の追求と管理統制の連動

緊縮財政政策は管理性政策と結びつく可能性をもつ。再任用制度もその一つであると実証された。

(cf. 調べる会報告) *実際は 6・4・1・2・3・5 の順で行われた

このニュースは会員以外の方にもお送りしています。ご意見・ご感想などお寄せください。

19:00~20:30 調べる会主催の夜の交流会（再任用に関する事項のみ）

村田さん...高校教員の定数調査のレクチャーでは再任用教員が多いことが示された。

若い研究者...「非常勤講師や再任用教員が安上がりの教員として、教育条件の悪化をもたらしている」と言う言い方は、この方々の存在を否定的にとらえているのではないか、彼らの気持ちを無視し、やる気を削いでいるのではないかという指摘がなされた。

8月18日の一日の活動を通しての感想（鈴木）

- ・教員と研究者は視点・立場が異なるために、結果として、反対の結論に達することがあるとわかった。
- ・私自身はどちらでもない、中間の立場で調査・研究を進めてきたが、今後は、教員としての視点・立場で活動していこうと決めた。
- ・「再任用教員制度の実施状況と教育的意義」の前半部分の調査研究をすすめるには、データを集め、調査研究すればいいが、後半部分は立場によって、逆の結論になるので、今後は、「教育的意義はある」とし、「その活用」（もっといい言葉はないかな？）を調査研究していく方向に決めた。この考え方は、8月8日の井深雄二先生のご指摘と同じである。
- ・「再任用教員制度は非常勤講師制度とともに、教育条件の悪化を招いた。」とする仮説を否定する方向で研究を進めていきたい。そのためには、再任用教員制度の教育実践にも目を向ける必要がある。

最後に

足かけ2年にわたる研究・報告を陰から支えていただいた「ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会」の橋口幽美氏、山崎洋介氏、4月の大阪での「調べる会」研修会、8月8日の名古屋での法制研究会に参加され、ご意見をいただいた会員の皆様に感謝申し上げます。また、常にわたしの研究の協力者として見守っていただいた、再任用教員の方々に心から感謝申し上げます。

次号の記事予告

教育科学研究会にて

長野県教組事務職員部学習会にて

数学教育研究会にて

データ集計状況報告

新しい本を出そう！！・・・今の情勢に応えるものを。

この間の調査研究で明らかになった事のまとめを。

このニュースは会員以外の方にもお送りしています。ご意見・ご感想などお寄せください。